

令和 7 年度 事業計画

事業概要

【期 間】

令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 3 1 日

【概 要】

当財団は公益法人として、公益法人制度の趣旨に鑑み、公益性の高い法人運営を行い、新潟における海洋・河川文化の普及啓発の充実を図っていく。

普及啓発事業においては、田んぼ体験や観察会の開催など野外における体験学習を実施するほか、学校等の団体を対象とした校外学習や教育機関への講師派遣など、教育施設との連携を継続する。

調査研究・保護継承事業においては、野生水族に関する生息調査等を行い、地域の自然史に関する知見の蓄積をより一層努める。

水生生物の展示及び飼育事業（水族館事業）においては、令和 6 年に「佐渡島（さど）の金山」が世界文化遺産に登録されたことを受け、「佐渡」の自然をテーマに企画展示を実施する。また、新たな試みとして、民間とのコラボで障がいのあることとご家族等を閉館後の水族館へ招待するイベント「ドリームナイト・アット・ジ・アクアリウム」を実施する。

新潟市水族館の指定管理者として来館者の安心・安全を第一に考え、これまでに積み上げていく知識・技術・経験、また全国的なネットワークを十分に活かし、適正な施設の管理運営を行っていくとともに、新潟市水族館の設置目的と「新潟で一番愛される施設」という当財団の新潟市水族館ビジョンを達成するため、一層の来館者の満足度向上に努める。

【事 業 名】

公益目的事業

- 1 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業
- 2 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業

収益事業

- 1 施設管理に付帯する事業

公益目的事業

1 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業

【事業目的】

新潟における海洋・河川文化の現状や変遷を調査研究及び情報発信することにより、海洋・河川文化及び海洋・河川等と人との関わりの大切さを後世に継承し、併せて地域社会の持続的発展の担い手を育む。

【主な事業内容】

(1) 海洋・河川文化の普及啓発

区 分	名 称	プログラム等	内 容
体験学習	ラムサール条約湿地 自治体連携事業 田んぼ体験	田植え	稲作体験（田植え・稲刈り・脱穀）と、収穫したわらを利用したわら細工体験を通して、新潟での稲作の文化、田んぼの環境や生息生物と人との関係を学ぶ
		稲刈り	
		脱穀	
		わら細工	
	野外観察会	スナガニ 野外観察会	砂浜でスナガニの観察や採集を行い、採集したカニの雌雄の見分け方の解説や巣穴構造を知るために石膏で型を取る
		貝の標本づくり	地先海岸で貝を採集し、採集した貝を用いて種の同定方法と標本作製の手順を学び実践する
		ラムサール条約湿地 自治体連携事業 潟のいきもの 観察会	潟と周辺の水路で水生生物を採集・観察する。生物だけでなく、潟の環境や生態系などについても観察する
講演会	マリンピアカレッジ	SDGs 関連 海岸清掃	清掃活動を通して、生物の生息する環境や環境に影響する海ゴミの問題について多くの方に考えてもらう機会とする
		イルカとヒトの 発声器官	イルカとヒトの発声器官の構造を解剖学的に比較しながらわかりやすく解説する 【講師：鶴見大学歯学部非常勤講師 植草康浩氏】
		ラムサール条約湿地 自治体連携事業 新潟の湿地と水鳥	新潟県の湿地環境の特性や重要性についてわかりやすく解説し、湿地で見られる水鳥の紹介も行いながら潟の生態系への理解や関心を深める。 【講師：水の駅「ビュー福島潟」 佐藤安男氏】
		大学での研究、 水族館での研究	クラゲ研究で著名な大学教授を招き、大学と水族館で行う研究の違いについて分かりやすく紹介する 【講師：北里大学海洋生命科学部 教授 三宅裕志氏】

講演会	特別講演会	SADO～世界に誇る自然と文化～	企画展示に関連して、佐渡の生物や環境、文化に精通した専門家を招き、佐渡の魅力を紹介することで佐渡への関心を深める機会とする。講演のほかパネルディスカッションを行う 【講師：新潟大学佐渡自然共生科学センター職員】
		水族館での魚の研究、カニの研究	新潟市水族館が行う水生生物に関する研究について、担当職員が目的や内容、また、その研究をどのように役立てたかなどについて紹介する。 【講師：新潟市水族館職員】
各種団体との連携	社会教育連携	ラムサール条約湿地 自治体連携事業 舟にのって水草刈りと泥上げ体験	にいがたフィールドの砂丘湖で舟に乗っての草刈り、ため池での泥上げ、上げた泥を田んぼに入れる体験を行う。また、新潟市歴史博物館の学芸員を招いて水田と潟環境の歴史的な関係の講義を行ってもらう
	学校教育連携	総合学習の受入	水生生物や環境問題などについての質疑応答やキャリア教育など、学校のニーズに合わせ写真や資料を用いて講義する
		実習生の受入	専門学校生、大学生を対象に飼育実習、獣医実習、博物館実習を行い、飼育技術や展示技術、教育方法などの現場実習を行う
		教育現場への講師派遣	アウトリーチ事業の一環として、野外での観察などの指導、生物や仕事についての講義・指導を行う
		地元大学との連携	教育・研究その他の分野において地元大学と連携を深め、双方の発展的な教育と研究の推進に向けて互いに協力し、地域の発展と人材の育成に寄与する
		小児病棟へのライブ配信	新潟県立がんセンターの小児病棟に入院中の病児へ、日本海大水槽やペンギン、イルカショーなどのライブ配信を行う
	行政機関連携	行政機関との連携イベント	省庁、自治体などと連携し、パネル展示やワークショップなどで水生生物や海洋河川および地域振興に関する情報を発信する
	出張展示関連	他団体主催イベントなど	館外へ出向いて、水生生物の生体展示、ワークショップなど楽しく学ぶ機会を提供する

(2) 海洋・河川文化の調査研究

区分	名称	内容
研究発表	J A Z A（日本動物園水族館協会）関連	水族館技術者研究会、海獣技術者研究会など
	J A A（日本水族館協会）関連	トレーニングセミナー、水族館研究会など

研究発表	その他研究会・学会	日本動物園水族館教育研究会、日本野生動物医学会、さけます等栽培対象資源対策事業など
各種会議	J A Z A 関連	生物多様性委員会、種保存会議、設備会議、事務主任者会議など
	J A A 関連	通常総会、寄鯨会議など
	その他会議	新潟県博物館協議会、大都市動物園水族館事務主管者会議、新潟市里潟研究ネットワーク会議など
研究	水産庁委託	アカムツの天然魚の採集と養成技術の開発
共同研究	岐阜大学	カマイルカの繁殖生理の季節性や生殖腺活動の状況などの調査
	新潟大学	イルカから水中で無侵襲的に脳波を記録する方法を確立するための研究
	日本獣医生命科学大学	ハンドウイルカとカマイルカの代謝モニタリング調査
	岩手大学	ペンギン類の鳥マラリア感染に関する研究
	国立研究開発法人 水産研究・教育機構	エチゼンクラゲの飼育条件による成長速度の比較研究
	日本大学・長崎大学・ 東京大学総合研究博物館	【新規】遺伝的差異が証明された日本沿岸カマイルカ 2 集団の形態学的、遺伝学的研究
	日本大学	【新規】鰭脚類のマイコプラズマの研究
	東京都葛西臨海水族園 ほか 12 園館	【新規】科学的根拠に基づいたペンギン類の動物福祉に配慮した適正な飼育施設基準の策定

(3) 海洋・河川文化の保護継承（生物種の保全を含む）

区分	名称	内容・回数
生息域内 保全	シナイモツゴ調査	県内の希少淡水魚の生息調査・2 回
	ホトケドジョウ調査	県内の希少淡水魚の生息調査・1 回
	コシノハゼ調査	県内の希少淡水魚の生息調査・5 回
	キタノアカヒレタビラ調査	県内の希少淡水魚の生息調査・2 回
	ハクバサンショウウオ調査	県内の両生類の生息調査・2 回
	タダミハコネ サンショウウオ調査	県内の両生類の生息調査・1 回
連携調査	深海生物調査	R O V（水中探査機）による佐渡海峡深海生物調査・1 回（ふくしま海洋科学館との共同）
	福島潟いきものしらべ 水生生物観察会	NPO ネットわーく福島潟の自然観察会への講師派遣・1 回
	親子魚探検 （五泉・新発田）	生物多様性保全ネットワーク新潟主催の自然観察会への講師派遣・2 回

連携調査	関川地区調査	タランペクラブの自然観察会「水あぶり」への講師派遣及び地元小学校で開催される「川の生き物観察会」への講師派遣・各1回
------	--------	--

2 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業（水族館の管理運営）

【事業目的】

新潟の自然環境とそこに生息する水生生物の展示を基礎としながら、多種多様な環境の生物を展示し、各種体験型プログラムを実施することで、市民が海洋・河川や水生生物などに親しむ機会の充実などを図り、海洋・河川に関心を持つきっかけとなる機会を創出する。

【主な事業内容】

(1) 水生生物に関する知識の普及振興

名称	プログラム	内容
企画展示	ラムサール条約湿地 自治体連携事業 にいがたの潟と水生生物	新潟の水辺環境である潟とそこに生息する水生生物を題材として、条件付特定外来生物などを紹介する
	SADO～世界に誇る自然 と文化～	佐渡の成り立ちや自然環境、また水族館ならではの「水」をテーマとした展示を行い、日本の縮図とも言われる佐渡について知る機会とする
	カマイルカレスキュー ～保護から放流までの 活動記録～	令和5年2月14日に座礁したカマイルカの保護から治療、リハビリ、放流までの映像や実際に使用した道具などを紹介する。また、鯨類等のストランディング（座礁、漂着）について、水族館の活動と共に解説する
	フォトコンテスト	新潟市水族館で撮影した写真をWeb上で公募し、年2回程度コンテストを実施する。受賞作品をWeb上で公開する
いきもの教室	サバの解剖	サバの外側のつくりと解剖したからだの内側のつくりや生体の観察を行う
	ビーバーのうんち ペーパーづくり	ビーバーの生態を解説し、糞の観察と糞を利用したペーパー作りを行う
	ペンギンのからだ	ペンギンのからだや仕組みについて解説し、ペンギンを観察しながらぬいぐるみに色を塗りオリジナルのペンギンを作る
障がい者向け イベント	ドリームナイト・アット・ジ・アクアリウム	普段あまり水族館に行く機会の少ない障がいのあることとその家族等を閉館後の水族館へ招待し、気兼ねなく楽しいひとときを過ごしてもらう
ガイド ツアー	ナイトツアー	閉館後の夜の水槽の様子を観察する。生き物の昼と夜の活動の違いや外観の変化等をツアー形式の解説で学び、水生生物の生態や自然環境への関心を深める
	イルカバックヤード ミニガイド	イルカ飼育設備のバックヤードやステージの解説を聞きながら見学し、イルカの生態について学ぶ

参加型イベント	ラムサール条約湿地 自治体連携事業 にいがたフィールドガイド	にいがたフィールドを歩きながら、自然環境と希少生物の域外保全について学ぶ。季節の変化を感じられるように 4 月～10 月（8 月を除く）に毎月 1 回開催する
	企画展示ガイドツアー	企画展示「SADO～世界に誇る自然と文化～」の会場でツアー形式の解説を 8 月～2 月に毎月 1 回開催する
記念日イベント	ペンギンの日	世界ペンギンの日（4/25）に合わせ、通常の展示だけではわからないペンギンの生態や野生の現状について理解を深めてもらうイベントを行う
	カワウソの日	世界カワウソの日（5 月最終水曜日）に合わせ、カワウソ類の生態や、野生の生息状況などを解説パネルで展示するとともに、ユーラシアカワウソに餌を与えながら解説を行う

(2) 水生生物の収集、飼育、展示

区分	名称	内容・回数
飼育展示	館内での飼育展示	600種20,000点を超える飼育規模を維持
常設解説	イルカショー	イルカの形態や生態、運動能力などをショー形式で解説する・4～5回／日
	マリンサファリ給餌解説	トドやアザラシに餌を与えながら、からだのつくりや生態について解説を行う・2回／日
	ペンギン解説	ペンギンのからだのつくりや生態、生息地の環境について解説を行う・2回／日
	日本海大水槽解説	大水槽の展示生物や海洋環境、水族館のしくみの解説を行う・1～2回／日
	磯のいきもの解説	磯の体験水槽で磯のいきものについて実際に触れてもらいながら解説を行う・1回／日
	アクアラボ体験プログラム	日替わりのテーマで、観察や実験、解説を行う・1回／日
生物収集	能生乗船	ベニズワイ漁乗船採集（深海生物）・1回
	佐渡乗船	エビカゴ漁乗船採集（深海生物）・2回
	佐渡採集	サドナデシコナマコ、イチゴカワリギンチャク等・4回
	柏崎アマモ採集	アマモ場生物採集・12回
	間瀬乗船	シキシマハナダイ・アカムツなど乗船釣り採集・5回
	神奈川県（横須賀）	マイワシ輸送・1回
	新潟県内淡水生物採集	アブラハヤ・タナゴ類・水生植物など・5回
生物交換	ふくしま海洋科学館	熱帯魚、深海生物など・5回

収益事業

1 施設管理に付帯する事業

【事業目的】

施設利用者に対する利便性を図るため、レストラン及び売店、自動販売機等の設置を行う。

【主な事業内容】

区分	設置数・場所
レストラン	1ヶ所・本館2階
軽食売店	2ヶ所・屋外、屋上 ※季節営業
移動販売車	1ヶ所・アプローチ棟手前 ※季節営業
売店	1ヶ所・アプローチ棟
自動販売機	18ヶ所・館内、屋外各所
ロッカー	1ヶ所・アプローチ棟
記念メダル	2ヶ所・本館1階
プリントシール機	1ヶ所・水辺の小動物
カプセルトレイ（コイの餌）	1ヶ所・屋外 ※季節営業

新潟市水族館の指定管理者としての実施項目と目標

1 普及啓発、調査研究及び保護

実施項目	達成目標
常設解説	毎日実施
企画展示	年間 250 日以上
ガイドツアー	3 企画以上、年間 20 日以上
各種調査等	公開・公表、研究機関との共有

2 生物の展示

実施項目	達成目標
魚類等の飼育展示	600 種 20,000 点を超える水生生物の飼育・展示

3 年間入館者数など

実施項目	達成目標
年間入館者数	54 万人以上
年間入館料収入	4 億 6,063 万 7 千円以上
年間パスポート購入者数	1 万 4 千人以上
年間パスポート所有者リピート数	年平均 7 回以上
ホームページと SNS の更新	合わせて週 7 回以上

4 人材育成

水族館を適切に運営するために J A Z A（日本動物園水族館協会）や J A A（日本水族館協会）などの会議・研究会へ参加するほか、社内研修を職種別、階層別、全共通に分けて計画的に実施する。また、職員の自発的な学びを進めるため、財団運営に必要な資格取得を推奨する